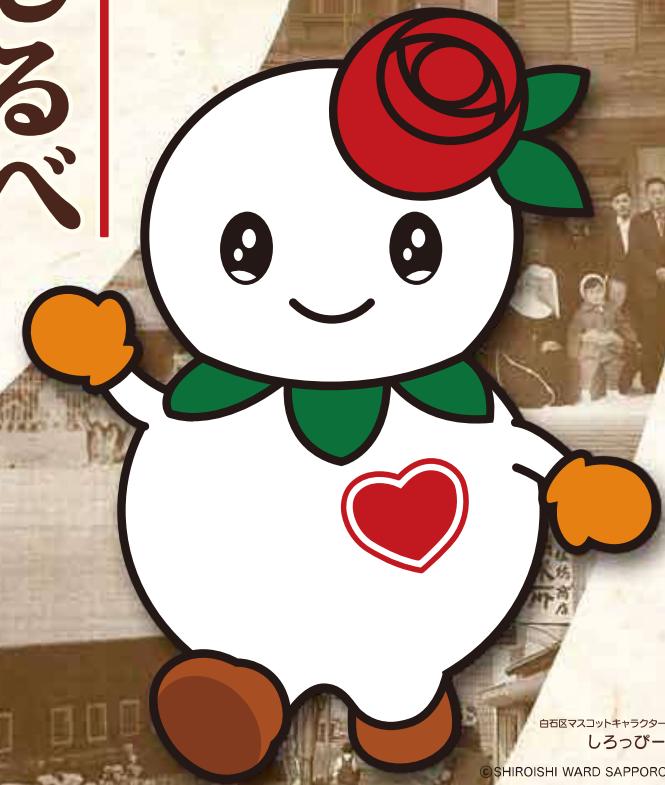




発 行：札幌市白石保健センター（白石区保健福祉部健康・子ども課）
札幌市白石区南郷通1丁目南8-1
TEL 011-862-1881
制作協力：白石とことこ会

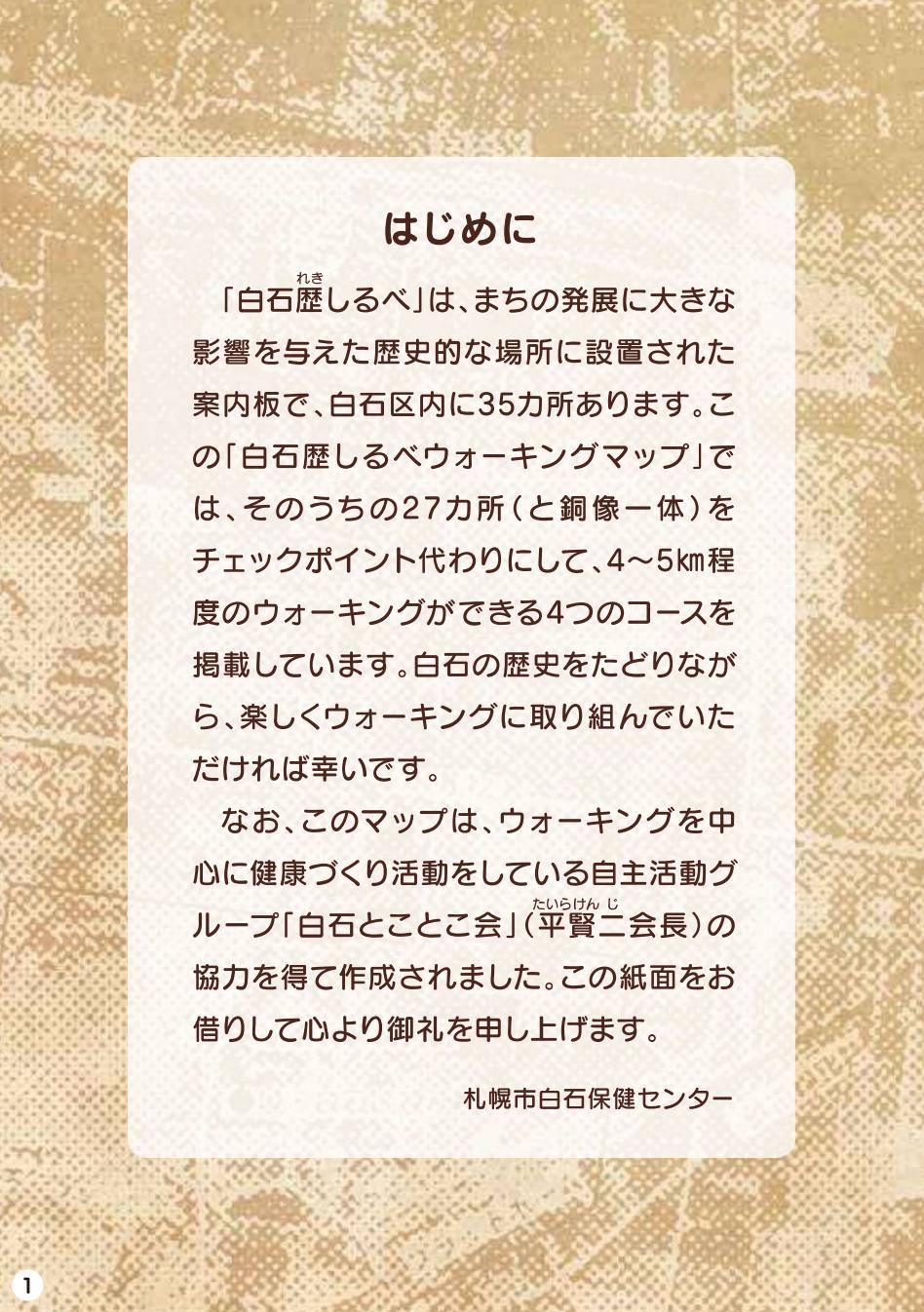
さっぽろ市
01-003-20-1670
R2-1-144

白石歴しるべ ウォーキングマップ



SAPP
ORO

白石区マスコットキャラクター
しろっぴー
© SHIROISHI WARD SAPPORO



はじめに

「白石歴しるべ」は、まちの発展に大きな影響を与えた歴史的な場所に設置された案内板で、白石区内に35カ所あります。この「白石歴しるべウォーキングマップ」では、そのうちの27カ所（と銅像一体）をチェックポイント代わりにして、4～5km程度のウォーキングができる4つのコースを掲載しています。白石の歴史をたどりながら、楽しくウォーキングに取り組んでいただければ幸いです。

なお、このマップは、ウォーキングを中心とした健康づくり活動をしている自主活動グループ「白石とことこ会」（平賢二会長）の協力を得て作成されました。この紙面をお借りして心より御礼を申し上げます。

札幌市白石保健センター

安全に運動をするために



体調をチェック

ひとつでも当てはまる場合には、運動やスポーツは行わないでください。

- 平熱を超える発熱
- 嗅覚や味覚の異常
- 咳、のどの痛みなど風邪の症状
- 体が重く感じる、疲れやすい等
- だるさ、息苦しさ

感染防止の3つの基本

- 十分な距離の確保
- マスクの着用
- 手洗い・手指消毒

家に帰ったらまず手や顔を洗う。できるだけすぐにシャワーを浴びて、着替える。

熱中症の予防 …暑くなる日は要注意！

こまめな水分・塩分の補給、休憩の確保、風通しの良い服装や着帽、屋内では空調の使用等を行いましょう。

マスクを着用したまま運動・スポーツをすると、水分補給を忘れたり、体温が下がりにくいことがありますので注意してください。また、マスクをしていつも通りの運動・スポーツをすると、運動強度が上がることがありますので、速度を落とすなど調整をしてください。息苦しさを感じた時はすぐに外すことや休憩を取る等、無理をしないでください。

×密閉 ×密集 ×密接

ウォーキング・ジョギングを行うときは、3つの密のうち、1つでも該当しないように注意しましょう。

- 一人又は少人数で実施
- すいた時間、場所を選ぶ
- 他の人との距離を確保
- すれ違う時は距離をとる



ウォーキング前後のストレッチ

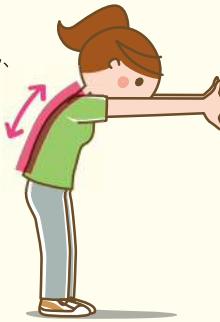
背伸び

両手を組んで頭の上に上げ、体をゆっくり引き上げる。



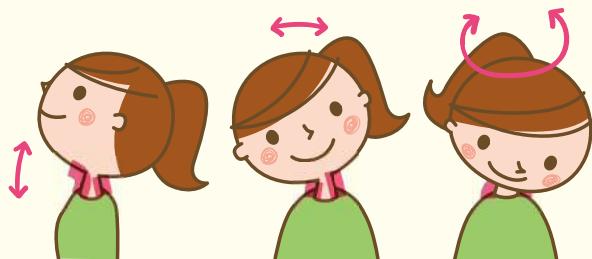
背中

手を前に伸ばし、背中を丸める。



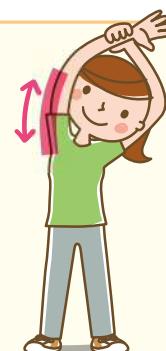
首

肩の力を抜き、頭を前後、左右に倒した後、ゆっくり大きく回す。



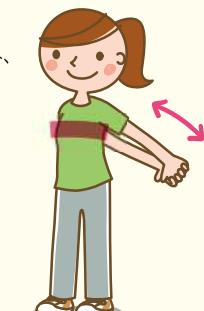
体側

両手を上げ、片方の手で反対側の手首を握り、腕を引っ張りながら脇を伸ばす。



胸

手を後ろで組み、胸を開く。



ストレッチのポイント

- 1 無理をしない**
痛みを感じない、気持ちいいところで静止して10~20秒程度伸ばす。
- 2 反動をつけない**
反動や勢いをつけずに動作はゆっくりと行う。
- 3 息を止めない**
ゆっくりと呼吸をしながら伸びている筋肉(ピンク色の部分)を意識して行う。

手首・足首

片足のつま先を立てて足首をよく回す。同時に、両手首もよくほぐす。



足の甲・すね

片足を後ろに引き、つま先を地面につける。前の足のひざを曲げ、後ろ足の甲を伸ばす。



アキレス腱・ふくらはぎ

足を前後に開き、うしろ足の足裏全體を地面につけ、体重を曲げた前足にのせる。



ももの前・股関節

上体を起こして足のつけ根からももにかけて伸ばす。



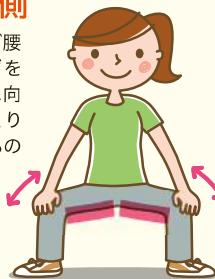
ももの裏

両足を軽く開き上体を前に倒す。起き上がる時は軽くひざを曲げてからゆっくりと上体を起こす。



ももの内側

大きく足を広げ腰をおろす。ひざをなるべく外側に向け、肩をゆっくり前に出してももの内側を伸ばす。



Aコース

平和通・本通・本郷通巡り 4.5km



スタート・ゴール JR白石駅南口東側駐輪場

- 1 JR白石駅
- 2 札幌石炭抗爆発予防試験所跡地
- 3 連隊通
- 4 陸軍官舎
- 5 白石中央墓地跡

- 6 白石村役場跡
- 7 白石村医療発祥之地
- 8 善俗堂跡地
- 9 陸軍兵器補給廠跡
- 10 鈴木レンガ工場跡

1

JR白石駅

平和通3丁目北6白石駅前広場



幌内鉄道・定山渓鉄道と白石駅

開拓使は、北海道初めての鉄道である幌内鉄道(現在の函館本線)を、明治15年(1882)に小樽から白石・江別経由で幌内まで開通させた。機関車の弁慶号と義経号は石炭を運ぶために大いに活躍した。

開通当初の白石駅は正式な駅ではなく、旗を掲げて乗客がいることを汽車に知らせて停めてもらうフラグ(旗)ステーションと呼ばれる仮乗降場だった。場所は現在の駅から100㍍ほど江別寄りである。しかしこの駅は翌16年に廃止されて駅のない時代が続き、再び現在地に駅ができるのは明治36年(1903)である。

一方、大正7年(1918)に定山渓鉄道が開通し、白石駅は20年以上にわたって始発駅を務めた。その後定山渓鉄道は苗穂駅始発、東札幌経由で運行するようになったため、昭和16年(1941)に白石駅・東札幌駅間に廃止された。



明治15年に道内初の鉄道として「幌内鉄道」が開通し、白石村にも仮乗降場が設けられました。

明治36年には、駅舎を備えた白石駅が誕生し、産業の発展とともに物流基地として栄えました。駅周辺には農協やコーカス工場などが操業し、人や荷馬車の往来でにぎわいました。



2

札幌石炭抗爆発 予防試験所跡地



平和通3丁目北1

札幌石炭抗爆発予防試験所跡地

明治から昭和30年代に至るまで石炭は燃料の主役で、わが国の石炭埋蔵量の50%を占める北海道は産炭地として大いに注目されていた。しかし採掘が深部に達し坑道が複雑になるとガス爆発や炭じん爆発が相次ぎ、北海道にも爆発予防に関する研究施設の設立が望まれていた。

昭和13年(1938)10月、商工省直轄の試験研究機関として「札幌石炭抗爆発予防試験所」という機構が設立された。そして爆発試験の影響、交通の便等を考慮し、白石村のこの地に敷地を決定し、昭和14年(1939)4月に着工、同年10月研究庁舎及び付帯設備が完成した。試験所は山林や畑に囲まれていたが、爆発試験による音響は遠く離れた民家でも聞こえた。

戦後は、戦時中の乱掘による炭鉱の荒廃、石油の普及による石炭市場の縮小などの変化に伴い、「北海道炭鉱保安技術研究所」など数度にわたる変遷を経て「北海道石炭鉱山技術試験センター」となり、平成14年(2002)まで鉱山保安のほか、メタン資源の開発・利用技術などの新しい研究にも取り組んでいた。


 ✓ 着いたらチェック

3

連隊通

平和通3丁目南1-4



連隊通（道道白石停車場線）

明治29年(1896)、月寒に独立歩兵大隊(明治32年、歩兵第二十五連隊に改編)が新設されたため、北海道炭鉱鉄道は明治36年4月21日、白石駅を開業した。

それまで、兵隊達は村境の横町(現 東札幌)を通らなければならなかったので、明治38年村の人が土地を寄付し、兵隊の手で道路をつくり上げた。これが連隊通である。

当初は、駅前まっすぐに道路をつくる計画であったが、用地取得が困難となり西にずれた。そのため J R 白石駅前広場がほとんどなく、連隊道路もすぐれているのである。

「栄通」で連隊通は一部切れるが、これは軍が昭和15年(1940)、この道路敷地に北部軍指令部を置き、その隣の敷地に司令官官邸を建てたためである。


 ✓ 着いたらチェック

明治38年(1905)に白石駅から月寒の独立歩兵大隊(後の歩兵第25連隊)への道として作られたのがこの通りです。兵隊の人力で作ったことが「連隊通」の由来。

第2次世界大戦中には沿道に陸軍兵器補給廠や官舎などが建てられていました。

4

陸軍官舎

平和通2丁目南4 白中公園内



陸軍官舎

昭和19年(1944)10月、旧白石区役所付近を中心とした約4万平方㍍に、樺太・千島など北方戦線への兵器などの供給のため、北海道陸軍兵器補給廠ができる。

この兵器補給廠に勤める兵士のためこの土地に、付近の土地割とは45°北へ回した真南向きに、陸軍中佐をはじめとする将校官舎13戸、下士官などの将兵住宅32戸、計45戸の陸軍官舎が建築され、棟の間にはそれぞれひとつずつの井戸もついていた。

さらに、白中公園の地にあった2棟を廊下でつなぎH型兵舎には、兵士50名ほどが駐在しており、これら住居者の熱望により、畳み3枚ほどの簀子を踏み板とした角形の五右衛門風呂の浴場が、軍隊の手により開設された。

官舎の区域全体が柵で囲われ、庇には独特的の飾り板もつけられ、外壁はドイツ式の下見板、窓ガラスは横長の板ガラスで4段×2列の戸2枚が1部屋の枠組にあった。

終戦でその多くの家族が移転したが、それは兵士の4分の1が本州方面、4分の1が道内各地から来た人びとであったためであろう。



✓ 着いたらチェック

昭和19年に建てられた陸軍兵器補給廠に勤める将兵の住宅として、現在の白石小学校の東側に45戸が建てられました。

当時としては珍しいコンクリートの基礎などを取り入れた近代的な建物でした。

5

白石中央墓地跡

平和通1丁目南2 白石温水プール敷地内



白石中央墓地跡

旧仙台藩白石城主片倉小十郎の元家來たちは、自分たちが開墾した土地と札幌本府が繁栄する様子を、死後も一望できる場所として、望月寒川右岸の火山灰丘陵を墓地に選んだ。旧暦明治5年(1872)2月27日に開拓使貢属^{*}の墓地として造成の許可を得、同じ年の7月に開設した。

大正11年(1922)、隣接地に上白石墓地から墓が移転し、昭和47年(1972)に合計587基の墓が里塚靈園に移転するまで、約100年にわたり墓地(面積12,809平方㍍)として使用された。

*開拓使貢属=武士の身分を失わずに北海道の防備と開拓に従事する人



先祖を大切にしていた村民が入植直後の明治5年に造成した墓地。その後、都市化とともに、昭和47年までにほとんどの墓碑が平岸や里塚の靈園に移転改葬されました。

跡地には、白石温水プールなどが建てられ、区民に親しまれています。

✓ 着いたらチェック

6

白石村役場跡

本通1丁目南2 白石まちづくりセンター前



白石村役場跡

ここに、明治35年(1902)から昭和47年(1972)までの70年間、白石村役場の建物があった。

白石村開村(明治4年・1871)当初の役場は戸長の佐藤孝郷宅で、会議には隣の善俗堂(白石小学校の前身)が使われた。

明治13年(1880)に白石村外四力村(白石・豊平・上白石・平岸・月寒)戸長役場が上白石村に置かれ、後に白石村3番地に移された。明治15年に開拓使が廃止されて函館・札幌・根室の三県時代となり、戸長役場は豊平村に移された。明治35年には白石村と上白石村が合併し、役場をこの標示板のある白石村47番地に置いた。

この場所は、開拓移民の佐藤孝郷たちが開拓地選定のために見渡した記念すべき場所である。

昭和25年(1950)に白石村は札幌市と合併し、村役場の建物は白石支所として使われた。昭和47年に札幌市は政令指定都市となり、区役所が設置されたために旧村役場の建物は解体された。



✓ 着いたらチェック

明治35年に白石村と上白石村が合併した際に、白石村役場が開設された場所です。役場の建物は、昭和25年に札幌市と合併してから、昭和47年(1972)に政令指定都市となるまで、札幌市の白石支所、白石出張所として使用されていました。

跡地には、白石まちづくりセンター・白石会館が建てられています。

7

白石村医療発祥之地

本通2丁目南 吉田記念病院前



白石村医療発祥之地

白石村は、明治4年の開村以来、長い間、いわゆる「無医村」の時代が続きました。病気になっても、村には医者がいないため、札幌からの巡回嘱託医の往診を待つしかありませんでした。

そのため、村の人たちは、一日も早い診療所の開設を願っていました。

昭和20年5月、白石村あげての誘致に、当時札幌で個人診療所を開業していた吉田廣医師が応え、この地に移住し、村医『白石村診療所』を開きました。開村75年目のことで、これが白石村最初の「病院」となったのです。

吉田廣医師は、昭和26年に他界されましたが、同医師の白石村医療発展にかけた情熱は、その後、地域医療に携わる医師をはじめ、多くの医療担当者に受け継がれております。



✓ 着いたらチェック

昭和20年(1945)、札幌で開業していた吉田廣医師は無医村だった白石村の要請に応えてこの地に移り住み、村医となりました。

吉田医師は昭和26年(1951)に亡くなるまで、村民のために尽力し、白石の医療の礎を築きました。

8

せん ぞく どう
善俗堂跡地

本通3丁目南



せん ぞく どう
善俗堂跡地

ここは白石小学校の前身である善俗堂があった場所である。

入植した旧仙台藩士の子供たちの教育のため、早くも入植の翌年の明治5年3月に右28番地と29番地の間のこの場所に寺小屋式学問所を開き、4月に善俗堂と名付けた。現在の白石小学校の始まりで、札幌市では創成小学校に次いで2番目に古い小学校である。村の人たちが将来を担う子供たちの教育にいかに熱心だったかが分かる。

当時の善俗堂は、先生2人に生徒18人の小さな学問所で、校舎であると同時に村の集会所としても使われた。

明治7年2月に「村学舎」、明治14年に「公立白石学校」と改め、翌15年に現在の白石小学校の場所に校舎を新築し移転した。その後校名、修学年限などが変わり、昭和25年に白石村が札幌市と合併して札幌市立白石小学校となって現在に至っている。


 ✓ 着いたらチェック

9

ほ きゅう しょう
陸軍兵器補給廠跡

本郷通3丁目北1



ほ きゅう しょう
陸軍兵器補給廠跡

太平洋戦争が激しくなった昭和19年(1944)10月、千島、アリューシャン諸島などの北方戦線に兵器や物資を供給するため、陸軍は旧白石区役所一帯に兵器補給廠をつくった。函館本線から鉄道が引けて、広い土地が確保でき、月寒の軍司令部から近いという立地条件を満たしていたのだろう。広い農地を借り上げ、周囲に柵を巡らして、事務所、工場、車庫などを建て、大砲、機関銃などの保管と修理をした。分断されて使えなくなった連隊通に替えて、軍はう回路を造った。

終戦後は軍の払い下げ建物を利用した釘工場があったが、今はすでになく、補給廠があったことをしのぶ建物はほとんどない。


 ✓ 着いたらチェック

第2次世界大戦が激しくなってきた昭和19年、千島・アリューシャン列島などの北方戦線に兵器や物資を補給するための補給廠が作られました。

旧白石区役所周辺一帯は武器貯蔵庫や修理場、医務局など12棟の建物がありました。

Aコース

10

すずき 鈴木レンガ工場跡

平和通6丁目南3



すずき 鈴木レンガ工場跡

白石の煉瓦場(明治・大正時代の呼称)のはじまりは、明治15年(1882)、駒沢小平がレンガに適する褐色の粘土を、現平和通6丁目北あたりで発見してからで、翌16年、遠藤清五郎の「遠藤煉瓦製造場」が2万個製造したと報告されている。

「鈴木煉瓦製造場」の初代 鈴木佐兵衛は東京生まれで明治15年9月渡道し、この地で明治17年7月(又は6月)工場を建設して、鉄道用レンガを製造したとの記録がある。

窯は“のぼり窯”で、燃料は付近の樹木を充てたので、土地が開け人口も増えると同時に、開拓者にとって恰好の稼ぎ場となり、レンガは白石の忘れられない産業となつた。

そのレンガは、道庁、ビール会社、五番館等赤レンガの建物や鉄橋にも使用された。

またこの工場では屋根瓦、甕や土管なども生産していた。

明治30年(1897)に、鈴木煉瓦製造場は白石村や月寒村に分工場を設立したが、大正11年、野幌に北海道炭礦鐵道株の大煉瓦場の建設やセメントの出現等で閉鎖した。



✓ 着いたらチェック

Dコース

Aコース

Bコース

本郷通・本通・平和通り巡り 4.5km



スタート・ゴール 白石あかつき公園

(地下鉄南郷13丁目駅3番出口徒歩2~3分)

11 ヒグマ騒動の地

12 白石神社

13 白石本通墓地

14 水源池通

15 長浜万蔵翁の銅像



15

16

Aコース

Bコース

Cコース

Dコース

11

ヒグマ騒動の地

本通13丁目南10 東白石まちづくりセンター前



ヒグマ騒動の地

ここは明治5年(1872)にヒグマが討ち取られ、明治29年(1896)には住民がヒグマに大けがを負わされた場所である。

原野を切り開いて始まった白石の開拓では、ヒグマによる人への危害、家畜・農作物の被害が深刻で、ヒグマが出たという情報が入ると探して殺した。

記録によると、白石ではヒグマに一方的に襲われて人が死亡したことではなく、地元農民に撃たれたヒグマが反撃して人が死亡・けがをしたことが2度ある。

明治13年(1880)には、今の平和通1丁目南付近で1人を死亡させ、明治29年(1896)には、今の水源池通で1人を死亡させて、翌日この東白石まちづくりセンター付近などで2人に大けがを負わせ、翌日仕留められている。



開拓者たちが最も恐れたのはヒグマ。人や家畜などへの被害が大きかつたため、開拓使では、捕獲奨励金を出して駆除に努めました。

明治29年には、この地域に出没したヒグマに襲われて、大けがを負う人や死亡者がいたため、村中総出で駆除したという記録が残っています。

 ✓ 着いたらチェック

12

白石神社

本通14丁目北



白石神社

明治4年(1871)に入植した旧仙台藩白石城主片倉小十郎の元家来とその家族たちは、わずか20日間で家を建て、村を完成させた。次に真っ先に望んだのが開拓の守り神として神武天皇を祭ることだった。

さっそく翌5年3月、村の最も奥の左50番地横の180坪四方の土地に神社を建てたいと開拓使に願い出た。集会を行う善俗堂や札幌へ行くことはあっても、村の端に行くことは少ないので、神社を村の端に建て、祭のときは全員で集まることにしたのだ。

「神武天皇を祭るのは認めないが札幌神社の遙拝所ならばよい」と開拓使の許可が下り、札幌神社の旧社殿を譲り受けて移設した。鎮座祭は明治5年5月15日、開拓使判官の岩村通俊から譲り受けた神武天皇陵の砂を御神体として行われた。村人はこの遙拝所を陰で「神武社」と呼んだ。

明治30年9月10日、社殿を建て直して名称を白石神社に改め、例大祭を9月11日と定めた。社殿は何度か火事で失火、現在の社殿は昭和41年に建て直したものである。


 ✓ 着いたらチェック

明治5年(1872)3月、円山公園に遷座した札幌神社旧社殿の払い下げを受け「札幌神社遙拝所」として建立。明治30年(1897)の社殿改築を機に名称を「白石神社」と改め、大正9年(1920)に村社として認められました。

13

白石本通墓地

平和通10丁目北5



白石本通墓地

白石中央墓地(現 平和通1丁目南2一帯)が、明治5年(1872)に設置されていたが、白石村の東側に居住する人びとから「近い場所に」との要望が強く、白石村では明治5年10月、開拓使に懇願した。

しかし、開拓使は「一村一カ所タルヘキ事」として却下している。

そのため、白石本通墓地の開設年は明確でないが、明治13年頃と関係書類には記録され正式に許可を受けたのは明治35年(1902)4月であった。

当時の墓石は、一般的には石山軟石(溶結凝灰岩)であったが、この墓地の特徴として、戒名・死亡年月日などを彫り込んだ粘土の素焼きに、上薬をかけて焼きあげた茶色い土管型や角柱型の墓も散見されたが、現存するのは土管型数個のみである。

隣接地にキリスト教徒の墓地が見られるが、この墓地は昭和7年(1932)日本札幌教区天主教宣教師社団が土地を購入、白石村に寄付し信者の埋葬地としたものである。


 ✓ 着いたらチェック

白石中央墓地から遠い入植地の東側に住む人々には、新たな墓地の開設が許可されなかったため、明治13年(1880)ごろ(推定)許可が無いままで開設されたもの(その後明治35年に許可)。

ここには、大正期以降に作られた珍しい土管型の焼き物の墓標があります。

14

水源池通

本通7丁目北1



水源池通

この通は豊平区の西岡水源池へ続く道である。

西岡水源池は、明治29年(1896)に月寒に独立歩兵大隊が新設され多数の兵士の飲料水の確保が必要になったために造られた人造湖である。

水源池から鹿の踏み分け道を利用して水道管を引き、明治42年(1909)に維持管理用の道路をその上に造った。これが水源池通の始まりである。大正5年(1916)の地形図では室蘭街道(今の国道36号)を越えて栄通まで延びている。また、明治6年(1873)5月にはすでに白石街道(今の国道12号)北側に、函館本線の位置を越えて道路が延びていた。

栄通と白石街道の間はかなり後まで畠地のままで、幅15m以上の道路になったのは、栄通8丁目付近で昭和36年(1961)、札幌白石郵便局付近で42年である。さらに札幌オリンピック前年の昭和46年に拡張・舗装化され、この時に白石区の部分も水源池通と命名された。


 ✓ 着いたらチェック

明治29年、月寒に新設された独立歩兵大隊のために、西岡水源池から水道管を引き、明治42年にその上に作られた維持管理用の道路が、この通りの前身です。

その後、昭和46(1971)年までに、現在の豊平区と白石区を縦断する道路として整備されました。

Aコース

Bコース

Cコース

Dコース

15

長浜万蔵翁の銅像

本郷通8丁目北



本郷商店街誕生の功労者「長浜万蔵」の銅像で、昭和40年(1965)に建立されました。

本郷商店街は、昭和31年(1956)に創設され、住宅街のないところに先に商店街が出来上がったユニークな商店街になりました。

「本郷」の由来は南郷と本通の中間であったことから名付けられました。

✓ 着いたらチェック

Cコース

菊水・菊水上町巡り 5.2km



スタート・ゴール やよい公園 (地下鉄菊水駅5番出口徒歩1分)

16 旧国鉄東札幌駅周辺の工場地帯跡

17 宇都宮牧場跡

18 有島武郎邸跡地

19 北海道庁立札幌治療院 札幌市助産所跡

20 札幌遊郭(通称:白石遊郭)跡

21 白石村1番

Aコース

Bコース

Cコース

Dコース

16

旧国鉄東札幌駅周辺の工場地帯跡

菊水1条3丁目 やよい公園内



旧国鉄東札幌駅周辺の工場地帯跡

豊平区から白石区の菊水・東札幌地区一帯にかけての地域は、大正時代から昭和40年代にかけて、鉄工、ゴム、繊維、木材などの工場群が立ち並んでいた。定山渓鉄道(大正7年開通)、国鉄千歳線(大正14年開通)が交差する国鉄東札幌駅を中心とする地域は原材料の運搬には都合がよく、しかも札幌という巨大な市場をすぐ近くに控えていたからである。

主なものとして北都ゴム工業所(大正11・菊水1-3)、三共ゴム工業所(昭和2・菊水7-2)、白熊ゴム(昭和23・東札幌1-3)、豊平製鋼所(豊平1-9・東札幌1-2)、北日本毛織(東札幌3-2)、さらに多数の木材工場があった。

昭和30年代後半に高度経済成長期に入り、工場と住宅が密集した状態となつたため、市の計画で順次西区の工業団地などに移転した。



✓ 着いたらチェック

17

宇都宮牧場跡

菊水1条4丁目6 菊水やよい児童会館前



日本近代酪農発祥の地—宇都宮牧場跡

明治35年(1902)から昭和2年(1927)までの25年間、ここに広さ20haの宇都宮牧場があった。

大分県生まれの宇都宮仙太郎は、明治18年に牧場経営を志して北海道に渡った。札幌県立真駒内牧場での実習で不足な分は英語の文献を読み、さらに理解を深めるためにアメリカに留学した。帰国後の明治35年に上白石村(今の菊水1~3条3~5丁目、東札幌1~2条1丁目付近)でサイロなどをもつ本格的な牧場を開き、近代的な飼育、牛乳販売、バター製造などを開始した。

民間人初の種牛輸入による品種改良、共同組合方式の資材調達、本格的なバター製造など、どれ一つとっても時代の先端をいくもので、日本の近代酪農の基礎を築いた。仙太郎は全国から慕って来る後継者を育て「日本酪農の父」と呼ばれ、アメリカに留学してホルスタインの品種改良に努めた長男の勤は「日本ホルスタインの父」と呼ばれた。



✓ 着いたらチェック

大分県生まれの宇都宮仙太郎は、アメリカ留学を経て、明治35年、白石村上白石に20haの近代的な農場を開きました。

バターの製造や牛の品種改良を行うなど、当時としては先進的な酪農技術の発信地でした。

18

ありしまたけお
有島武郎邸跡地

菊水1条1丁目 豊平川河岸公園内

※公園再整備につき一時撤去中



ありしまたけお
有島武郎邸跡地

作家有島武郎が、東北帝国大学農科大学(現在の北海道大学)教授をしていたときの明治43年5月から翌年7月頃まで住んでいたところです。

名作「生まれ出づる悩み」(大正7年作)に、「私の借りた家は札幌の町はずれを流れる豊平川という川の右岸にあった。その家は堤の下の一町歩程もある大きな林檎園の中に建ててあった」と書かれています。

ちょうど、有島武郎が結婚して間もない頃で、作家の武者小路実篤や画家木田金次郎たちも、ここをよく訪れておりました。

その屋敷も、老朽化のため昭和49年に解体され、昭和57年、野幌森林公園内にある「北海道開拓の村」に復元、公開されています。



作家の有島武郎が妻の安子と当時リンゴ園であったこの地に居を構え、作家武者小路実篤や岩内の漁夫画家・木田金次郎らと親交を結びました。

著作「生まれ出づる悩み」に当時住んでいたこの家の記述があります。

現在、建物は解体し、北海道開拓の村に復元されています。

19

北海道庁立札幌治療院・札幌市助産所跡

菊水5条1丁目 菊寿園



北海道庁立札幌治療院跡・札幌市助産所跡

大正6年から9年にかけて札幌遊郭(通称薄野遊郭)がこの菊水地区に移転し、それに伴い公権力で性病を予防・治療する北海道庁立札幌治療院(院長は警察署長)も薄野から遊郭街のこの位置に移転してきた。

戦後、性病予防法と保健所法が制定され、性病予防は保健所の仕事になったので、札幌治療院は役目を終えた。

その施設を札幌市が買って児童福祉法に基づく札幌市助産所を開設。昭和44年に廃止されるまでの約20年間、妊婦・育児相談、入院出産などで多数の母子の健康を守った。

翌45年(1970)には札幌市初の軽費老人ホーム札幌市菊寿園と日本住宅都市整備公団の複合施設を開設し現在に至っている。



札幌遊郭の菊水地区への移転に伴い、性感染症の予防・治療をする札幌治療院もこの地に移転しました。戦後、同治療院は閉鎖されます。

全面改築後は札幌市助産所となり、昭和44年(1969)に廃止されるまで多くの母子の健康を守りました。

20

札幌遊郭跡

(通称:白石遊郭)

菊水5条2丁目 菊水公園内



札幌遊郭(通称白石遊郭)跡

明治初期、札幌本府建設に集まった大工たちを目当てに料飲店や売女屋が増えたため、開拓使は街外れの薄野に札幌遊郭(一般に薄野遊郭と呼ばれた)を定めてこれらを一ヵ所にまとめた。

薄野が市街地化すると遊郭の移転が計画され、周辺の村は遊郭誘致に名乗りをあげたが、リンゴの病害虫で悩む白石村の果樹園主たちが遊郭用地を札幌区に寄付して誘致に成功した。

大正9年までに移転を終えた札幌遊郭は地名をとって白石遊郭と一般に呼ばれた。写真のように通りに面して30軒ほどの妓楼が建ち並び、通りの中央に小川が流れていた。遊郭の東西の端に大きな門があり、国道36号からこの門に至る道は大門通と呼ばれた。

戦後の昭和26年(1951)、札幌市の風俗取締条例制定とアメリカ軍の撤退で廃業する妓楼が相次ぎ、昭和33年(1958)の売春防止法完全施行で白石遊郭は姿を消した。


 ✓ 着いたらチェック

開拓使は、明治10年(1877)に薄野に札幌遊郭を開きましたが都市化により移転を計画。大正9年(1920)までに、果樹園主から土地の寄付を受け、菊水地区に移転しました。

「白石遊郭」と呼ばれ、現在の菊水2～5条近辺に30件もの妓楼が軒を連ねました。

21

白石村1番

菊水上町2条3丁目 白石公園内



白石村1番

白石開拓の第一歩は、旧暦明治4年11月(新暦の12月)、旧仙台藩白石城主片倉小十郎の元家来とその家族が、家老佐藤孝郷に率いられて、この地に開拓のiswaを振ったのに始まる。

原始林を切り開き、幅18m、長さ3,600mの道路(現在の国道12号)を造り、この道路を挟んで、道路の右と左にそれぞれ1番から50番までの番号をつけて土地割りをした。厳しい寒さの中、翌5年2月までに100戸の小屋がけを完了し、この年に左右の番号をひとまとめにして1番から100番に変えた。

土地割りの起点となった1番はこの標示板のやや東側にあたり、100番は白石神社の西隣にあたる。


 ✓ 着いたらチェック

白石開拓の第一歩は、明治4年(1871)、旧仙台藩の白石城主の家臣が、望月寒(当時の呼び方。現在の白石区中央付近)に移住したことに始まります。

基点となったのは、現在の菊水と白石中央との境界に当たる地点(白石ご線橋頂上やや西側)。そこから現在の国道12号線沿いに北側を白石左1番、南側を白石右1番と付番しました。

Dコース

東札幌・白石中央巡り 4.7km



スタート・ゴール 白石区複合庁舎

- 22 横丁通
- 23 白石のリンゴ園跡
- 24 エゾオオカミ捕獲の場所
- 25 白石村水田発祥の地

- 26 納豆博士・半澤洵生誕の地
- 27 豊平外三ヵ村聯合用水路
- 28 望月寒川

22

横丁通

東札幌3条4丁目 きよみず公園内



横丁通(札幌本府通)=現・米里行啓通

旧暦明治4年(1871)11月に旧仙台藩白石城主片倉小十郎の元家来たちが
入植し、現在の国道12号の中央1条1丁目の跨線橋付近から白石神社までの間に
住み着き、道の両側に1番から50番まで区画割りをした。しかし翌春、左右1
番から7番までの区画が雪解け水で浸水し、居住地として適さないことがわ
かった。

そのためこの間の18戸は、国道12号から横に入った札幌本府通沿いに移り
住んだので横丁と名付けられた。札幌本府通は明治5年5月には豊平村の今の
国道36号まで延長されたが、横丁を通るこの区間は横丁通とも呼ばれるよう
になった。

なお、この横丁通を主な生活道路として利用した集落を、行政的に横丁(後に
横町)と呼んでいたが、昭和35年(1960)3月31日付で町名を東札幌と改正
したことにより、長年使用された横丁・横町の名称はなくなった。



✓ 着いたらチェック

明治5年(1872)春、現在の国道12号
線沿いの低湿地に住んでいた18戸が、浸
水を避けるために本通から横道にそれた
「横丁(現在の米里行啓通)」沿いに移住し
ました。同年、白石神社から横丁通り、
現在の国道36号に抜ける札幌本府道が
開通。そのうち、現在の中央1条3丁目か
ら国道36号までの区間が「横丁通」と呼
ばれました。

23

白石のリンゴ園跡

東札幌3条4丁目 きよみず公園内



白石のリンゴ園跡

リンゴが日本に入ってきたのは鎌倉時代だが、本格的には明治4年(1871)に東京の開拓使がアメリカから輸入した果樹の栽培に始まる。明治6年にはそれを開拓使札幌庁舎の果樹園に移植し、明治8年から20年までに無償・有償でナシ、リンゴ、桃、アンズ、スマモ、サクランボ、梅、ブドウの苗木671,600本を開拓者に配布し、白石村にも25,474本が配布された。

なかでもリンゴの栽培が普及し、白石では豊平川付近から現在の地下鉄白石駅付近までリンゴ園が広がった。リンゴはロシアなどに輸出され、リンゴ景気にわいた一方で病害虫に悩まされ、廃園する者も続出した。戦後の混迷期にもリンゴは売れたが、昭和25年(1950)に札幌市と合併してから宅地化が進み、白石果樹組合は昭和35年に解散した。



明治初期から果樹栽培が札幌に普及。全道の果実生産の8割を占め、ロシアなどの海外にも輸出されました。

白石村でも開拓使官吏・津田教助らが現在の東札幌周辺でリンゴ園を経営し、品評会でも好成績を収めました。

✓ 着いたらチェック

24

エゾオオカミ

捕獲の場所 中央1条3丁目



世界でただ1頭の標本となった エゾオオカミを捕獲した場所

開拓が始まったばかりの明治初期の白石は原始林や荒れ地で、ヒグマ、エゾオオカミ、エゾシカなどが住む世界だった。

エゾシカは、大雪による食糧不足と、作物の害獣として駆除されたために絶滅寸前となり、そのエゾシカを主な餌とするエゾオオカミは馬を襲うようになったため毒薬で殺され、明治20年頃に絶滅した。

明治10年(博物館の説明板では12年)に、この場所で昼寝していたエゾオオカミが村人に火縄銃で撃ち取られ、現在では世界でただ1頭のエゾオオカミの雄の標本として北海道大学付属植物園内の博物館に展示されている。



開拓当初、白石はエゾオオカミやヒグマなど野生動物が多い土地で、家畜や住民が度々被害に遭っていました。

この場所で駆除されたエゾオオカミが、貴重な標本として北大植物園内の博物館に展示されています。

✓ 着いたらチェック

25

白石村 水田発祥の地 中央3条5丁目 白生公園内



白石村水田発祥の地

明治の初め、北海道は稻が育たない地として、もっぱら麦と畑作が農業の中心がありました。

この地に入植した旧白石藩の人たちは、明治7年に故郷から種粒を取り寄せ、稻の作付けを試みましたが、厳しい気象条件に打ち勝つことができず、一粒の米も収穫できない年が続いたのです。

しかし、コメに対する強い思いと、旧白石藩土としての団結心で、この白生公園一帯の荒れ地を共同で開墾。明治16年、初めて穀79俵(約5.5t)の収穫をあげたのでした。白石米第一号の誕生です。

その後も、日照りや冷害、病害虫に強い稻の品種改良を重ね、その努力が実って、毎年、少しづつ収穫をあげていくことができました。

白石村の稻作成功は、やがて、札幌近郊に稻作を広めることとなり、水田経営の模範として讃えられたのでした。


 ✓ 着いたらチェック

26

納豆博士・ 半澤 淳生誕の地 中央1条5丁目



納豆博士 半澤淳生誕の地

北海道帝国大学(北海道大学の前身)の教授で応用菌学の権威である半澤淳博士は、明治12年(1879年)1月9日、札幌郡白石村に誕生しました。

主な業績の一つに納豆菌の研究があります。それまでの納豆は雑菌も含んだ糞わらを使用していましたが、純粋な納豆菌を培養し、経木(薄皮)の容器を使用することで、衛生的で量産も可能な方法を確立しました。それは大学納豆として広まり、教授は親しみを込めて納豆博士とも呼ばれるようになりました。

社会奉仕活動にも熱心に取り組み、新渡戸稻造博士が創立した遠友夜学校に学生時代から参加し、大正10年に代表に就任。後には三代目校長として、昭和19年の閉校まで長く関わりました。また、北海道共同募金会には準備委員としてその創設に努め、初代会長に就任しました。

数多くの業績を残した博士は、昭和47年(1972年)9月25日、93歳の生涯を終えました。


 ✓ 着いたらチェック

半澤淳博士は明治12年1月9日、白石村31番地に、半澤時中と加代の長男として誕生。

大正5年(1916)6月、北海道帝国大学(北大の前身)教授となり、応用菌学の第一人者として数々の研究論文を発表。中でも科学的で衛生的な「半澤式改良納豆製造法」を広め、わが国の納豆製造法は現在もこの方法で行われています。

27

とよ ひら ほか さん か そん
豊平外三カ村
れん ごう

聯合用水路 東札幌6条4丁目 もつき公園内



とよ ひら ほか さん か そん れん ごう
豊平外三カ村聯合用水路

飲料水などの生活用水路として精進川から取水して豊平川へ注ぐ平岸用水堀が明治6年に造られていたが、稻作が盛んになると、この用水堀からさらに豊平、平岸、白石、上白石の各村へ注ぐ1号～4号用水路が豊平外三カ村聯合用水組合によって造られ、以後明治45年(1912)までに5号～15号用水路が造られた。この標示板がある通には1号用水が流れている。

用水路は用水組合によって共同管理され、修理は全村あげて一斉に行われ、その後の慰労会は4村組合員の交流の場となった。また物価が高いときは、田植え、草取りなどの賃金協定を行い、お互いの負担を軽くする役目も果たした。

昭和22年以降の農地改革で自作農が増え、用水はますます活用されたが、都市化が進むと水田耕作者が減り、昭和36年(1961)に聯合用水組合は解散した。



✓ 着いたらチェック

28

も つぎ さむ
望月寒川

東札幌6条5丁目 東札幌にれ公園内



も・ちきさつぶ
白石の母なる川—望月寒川*

望月寒川は真駒内南部の丘陵を源とし、白石一帯を抜けて月寒川に合流する12番の二級河川である。

白石村の開祖となった元仙台藩白石城主片倉小十郎の元家来たちは、明治4年(1871)に月寒台地から望月寒川流域一帯を見渡して、自然の恵みが豊かなこの土地に村を開くことにした。

望月寒川にはウグイ、ニジマス、サケなどの魚が豊富で、水は生活用水、農業用水としても欠かせなかった。明治7年から水田試作が始まり、苦労の末に一帯は美田になった。

その一方で家屋浸水、田畠の水没などの害ももたらした。望月寒川は白石村民にとって喜びと悲しみをもたらした忘れ得ぬ川なのである。

昭和41年以降の区画整理で水田は宅地化し、望月寒川は直線化された。野性味がなくなり生活との関連も希薄になったが、変わらぬ流れが今も区民を見守っている。

*モ・チキサップは、アイヌ語でモ=小さい、チキサブ=アカダモの木片で火をおこしたところ、など諸説がある。



✓ 着いたらチェック

真駒内南部の丘陵が水源。「モ」はアイヌ民族の言葉で「小さい」を意味し、望月寒川は「月寒川の支流」を意味しているとも言われています。

この川は度々水害を起こしましたが、コメを実らせ、貴重なタンパク源でもある川魚を育てるなど、村民にとっては大きな恵みをもたらす母なる川でした。

ウォーキング記録表

歩いた日時やコース、その日の天気や感想など